

令和3年度 刈谷市 共存・協働のまちづくり推進委員会 第3回夢ファンド部会(公開審査会) 記録

日時 令和4年1月15日(土)
午後1時00分～午後3時50分
場所：刈谷市民ボランティア活動センター

出席者

団体名・役職等	氏名
刈谷市民ボランティア活動センター センター長	米田 正寛
名城大学 教授	昇 秀樹
刈谷市商店街連盟 理事	柘植 祥史
刈谷市公民館連絡協議会 書記	近藤 啓
刈谷市女性の会連絡協議会 会計	清水加代子
NPO 法人刈谷おもちゃ病院 副理事長	長澤 勇夫
防災ママかきつばた 代表	高木 一恵
一般公募	面高 俊文

事務局

所属	補職名	氏名
市民活動部市民協働課	協働推進監兼市民協働課長	石川 領子
市民活動部市民協働課	課長補佐兼地域支援係長	石川 孝志
市民活動部市民協働課	協働推進係長	小原 崇照
市民活動部市民協働課	主事	禰宜田千穂
NPO法人ボランタリーネイバース	副理事長・調査研究部長	三島知斗世
NPO法人ボランタリーネイバース	理事・事務局長	遠山 涼子

1 開会・あいさつ

- (1) 定刻になり、市民協働課協働推進係長が開会を宣した。
- (2) 協働推進監あいさつ

2 公開審査会

(1)まちづくり活動支援

1 傳兵衛クラブ刈谷／「没後100周年 神谷傳兵衛を知る・伝える」

ア プレゼン概要

- 郷土の偉人「神谷傳兵衛」の足跡や業績を知り、関連する郷土史を勉強し、業績を伝える活動を行っている。
- 神谷傳兵衛氏は1856年西尾市一色町に生まれる。神谷バーや日本初のワイン醸造所(牛久シャトー)を作り、日本のワイン王と呼ばれる。刈谷との関わりは、三河鉄道(現名鉄三河線)三代目社長に就任。倒産寸前から立て直した。耐火煉瓦の良質の土があると聞き、知立から猿投方面へ線路を延

ばし、東洋耐火レンガ工場を現在のアピタの地に造った。その時の工場長兼理事長が名誉市民第一号の大野一造氏である。

- 東西を東海道線、南北を三河鉄道が重なり、その後の刈谷の発展につながる。「傳兵衛さん」が刈谷の発展に貢献したと言える。
- 今年で没後 100 年を迎える。2 代目電造氏が「神谷駅」を造った。貴賓室のあるコンクリート造りの立派な駅である。
- 傳兵衛クラブ刈谷は、活動を初めて 1 年 3 ヶ月経過。会員は当初 9 名から 29 名となった。
- 勉強会を始めたきっかけは、西尾出身である株式会社アジオカ社長の味岡氏が、大正時代の伝記本を復刻したことにはじまる。味岡氏から冊子を寄贈していただいた。復刻本の表紙は、西尾出身の画家斎藤吾郎氏の作品である。
- 一昨年、牛久シャトーが日本遺産に登録され、昨年クラウドファンディングによる復活プロジェクトが行われ、参加した。2022 年没後 100 年を記念し、より多くの方に知っていただきたいと考え申請した。
- 記念講演会を 9 月に、中央図書館大会議室で開催。会場定員の半数 100 名とする。
- コラボ団体のチャンネル Daichi の映像を放映するほか、図書館の展示コーナーで「傳兵衛さん」や三河鉄道など関連品、村上文庫所蔵「神谷傳兵衛」原本などを展示する。
- 郵便記念小型印を発行。デザインを齋藤五郎氏に依頼。
- マンガ本の制作。復刻本が大人にとっても読みづらいため、子どもも分かりやすいマンガ冊子とする。作家は鬼灯（ほおづき）つばめ氏。300 部予定、半数を市内学校・図書館へ無償配布し、残る半数は協賛者への返礼や販売する。
- パンフレットやちらしに広告協賛枠を設け、個人・法人協賛の目標 25 万円。夢ファンド補助金 20 万円、マンガ売上 1 万円、計 46 万円の収入を見込む。
- 次年度以降の展望は、多くの市民に知ってもらうためには、伝える人を増やし、刈谷市の偉人として認知してもらうこと。例えば、ふるさとガイドボランティアと連携し、歴史コースをつくりたい。勉強会は自分たちの楽しみだけでなく、夢ファンドをきっかけに縁の地域と連携して発展する活動を目指す。

イ 質疑応答

- 委員：「神谷傳兵衛」について今回初めて知り、地区の発展に寄与されたことが資料から確認できた。活動についてはホームニュースや市民だよりに掲載されるなど活用されているが、広報活動に関して人員体制や進め方について、今までの経過と今後の計画について説明いただきたい。
- 団体：メンバーの SNS を中心に呼びかけている。勉強会は会費制であるが、クローズド感が出ないよう、誰でも参加できるようにしていく。拡大したいがコロナ禍もあり 1 年が経過した。主催事業のほか、ボラセン主催の車座集會など、新しい方に知ってもらう活動に取り組んだ。
- 委員：1 回あたり参加者は何名くらいか。
- 団体：勉強会は毎月 1 回開催し、徐々に増えて 20 名以上が集まっている。ボラセンを会場に開催しているが、20 名を超えるとコロナ対策のため全面貸し切る必要がある。
- 委員：中央図書館で来年 9 月に開催する活動に対する支出が中心でよろしいか。
- 団体：記念講演は、図書館の使用料がかからないため、出演者にかかる費用が中心である。その他、展示会、漫画本の制作にかかる印刷費、作家への謝礼である。
- 委員：漫画本は小中学校で配布されると説明があったが、小さい頃に郷土の歴史を作り上げた人を知る機会は大事である。小学校の子どもたちに配るだけでなく、積極的に学校と話しながらい進められるとよい。足がかりはあるか。
- 団体：配布する際に学校関係者と話ができるとうい。全員に配布されているタブレットを活かして、いつでも見られるようにすることなど検討できる。教材の副読本があるので、将来的には「傳兵衛」を掲載していただけるとよい。先生方と連携を図っていきたい。

委員：多くの子どもたちに知ってもらえるよう活動していただきたい。

委員：「傳兵衛さん」の伝記を読み、刈谷で重要な人物であるのに知られていないことに気づいた。市では偉人のビデオを作ってPRされているが、まだ取り上げられていない。歴史記念館も含めて「傳兵衛さん」の検証に取り組みられるとよいと想いがある。冊子を拝見し、「刈谷の渋沢栄一」の名にふさわしい素晴らしい素晴らしい功績を残された。100周年の漫画制作と講演に終わらせず、全国区に広めるビジョンを具体的に進めていただきながら、「刈谷の傳兵衛さん」をいかに市民の共有の想いとしていくか。貴団体が中心となり企画を進めていただきたい。100周年を超えた後、団体としての目標をあらためて確認したい。

団体：市民に知ってもらえるように、認知を広める活動が必要と考える。今回の勉強会も牛久や浅草など他の地域の協力を得て進めており、お声かけしながら広めていく。私は一色町出身であるが初めて知ったのは3年前。川口さんのお話を聞き、トヨタの大野家の話や、刈谷の発展史につながる話も勉強になった。全国的な展開は、連携深めて取り組むことと、地元トヨタ関係の大野さんの話も参考として織り込みながら展開したい。また、郵便局の小型印はマニアを想定して実験的に取り組みをしながら考えていきたい。

【委員からの感想】

- 中身の濃い、分かりやすいプレゼンをありがとうございました。神谷傳兵衛という方は初めて知りました。企業の社長さんが本を書かれて復刻したことがきっかけと説明いただきましたが、復刻されなければ知られることもなかったと思うので、みなさんのこれからの活動は重要であると感じました。トヨタ系企業との繋がりや、「傳兵衛さん」の子どもの頃や育った環境、起こした事業を発展するに至った考え方などにも興味があります。
- 漫画の完成を楽しみにしています。
- 現存する資料や、ゆかりの品は大切に保管いただきたいです。刈谷市の歴史コースで、地元の人が「傳兵衛さん」を知り、全国区に広めることもできるとよいと思います。活動に期待しています。

2 なかよし広場／「なかよしGS 地域住民健康増進活動」

ア プレゼン概要

- コラボ 70 補助金をもとに、地域のための憩いの場としてなかよし広場を作った。1年8か月経ち、地域に役立っている実感をもつ。
- 富士松駅西側の土地を借り、コンテナハウスで店舗を設置。春夏シーズンは屋外スペースもにぎわう。
- 13名のなかよしGSメンバーが中心となり、毎月1回会議でより良い運営を話し合う。合計30名のボランティアスタッフで運営。
- 買い物難民をなくすため、野菜や果物、パン総菜をお値打ち価格で販売し、食生活を支える目的で取り組む。誰もが立ち寄れる喫茶コーナーをつくり、会話を楽しんでもらえるようにした。
- 地元農家7軒から無農薬で安価な野菜を提供してもらうほか、地元の人の手づくり品（マスク・バッグ・木工品・帽子等）を展示販売する。
- 年配の方や小さなお子さんのいるお母さんたちが定期的に集まり、話ができる場として提供している。少人数での音楽劇、人形劇を開催した。
- 今川町の行事として開催されたウォークラリーの拠点となり、地域の方に知ってもらう機会となった。
- 感染防止対策を充実させている。机や椅子に抗ウイルスコーティング、4つの換気扇で換気、空気清浄機、CO2濃度測定機の設置、キッチン・レジに飛沫防止用シート、机にテーブルシールド設置、体温計・足踏み消毒液を設置。マイスター認証では3つ星を獲得した。

- 今年度は、市民の健康増進活動に取り組む。高齢者の体操教室として、看護師による事前の体調チェックを行い、正しい姿勢で生活ができるように学ぶほか、一人暮らしの高齢者のためのバランスよい食事について、自宅で簡単にできる調理方法を学ぶ高齢者向け料理教室を開く。
- このほか、幼児向け人形劇年2回（10名程/回）、若い母親のための手芸教室（託児付き）月2回（5名程/チーム）を行う。
- 補助金は、教室の運営にむけて、安心安全な運営のため、必要な人材の確保や物品整備に活用する。
- 収入の内訳は、コラボ70補助金の他、すべて店舗の売り上げによる。売り上げの費目は、飲食代金、野菜・総菜パン豆腐の販売代金、飲み物の代行購入配達代、広場貸出料、自動販売機、コープ愛知委託料などがある。野菜38%（うち10%は地元野菜）、カフェ35%と全体の70%強を占める。パン総菜豆腐販売12%、雑貨販売8%、その他7%である。
- カフェメニューは200~300円と安価のため利益は少ないが、週に何度も足を運ぶ人もあり、野菜やパンの販売につながり黒字となり、わずかではあるが安定した経営ができています。

イ 質疑応答

委員：地域の場づくりは、都市部では多くの拠点がある。空き家や空き店舗が活用されている例が多いが、借地であると困難が伴っているのではないかと。質問は3つ。

1) これまでで1番苦労した点、それをどのように乗り越えたか。2) 自治会や地元の支援も含めて安定した経営ができるようになった今、何が一番力になり、どんなことを糧に経営してきたか。3) 今後、地域のニーズにあわせながら充実強化を図り、安定化するうえで、一番大事なのは持続可能性である。今回の補助金の使途も含めて、今後どのように運営をしようとしているか。

団体：1) 苦労はあまりありません。14名の仲間がいて、それぞれ強みがある。コロナに詳しい看護師、教育や子どもに関して強いメンバーが3~4名、電気の修理や建物管理に強い人など、問題が起きてその人を中心に解決できる。不安な時に助言をいただけるような遠くから見守ってくださる方もいる。一番は、目的がぶれないこと。地域住民のため、このまちをよくするため取り組み始めたのが原点であり、お金儲けが目的でない。緊急事態で1か月休んだのは、苦しかった。30名全員ボランティアなので、儲けを支払う必要はない。土地代は、活動目的をご理解いただき、安くしていただいている。

- コラボ70補助金が有効に活用できた。建物に関するリース代金1日800円、土地代を30万円支払えば、残りは電気代などを払えばよいので楽である。
- 豆腐を必ず買いに来てくれたり、無農薬野菜を求めて買いに来てくれたり、雑貨品など少しずつあわせて全体の収益となる。売れるものを厳選して置いている。コーヒーはおいしい素材でお値打ちなものとしている。

2) 安定につながった点は、1つ目と同じである。

3) 当初は教室の充実が目的だったがコロナによりほとんど開催できなかった。活動することから町内のニーズが見えてきた。寂しい時に集まって、みんなと話せる場所はほぼ達成できている。認知症が進まないようにするためには積極的に関わる必要があり、一人暮らしの高齢者へのアプローチに取り組むことにした。

また、若い母親が来てくれるようになり、子育て中は習い事ができないとの声を聞き、子育てに関わるボランティアが多数いるので、少しお金を払って、子育てをしてもらっている間、お母さんを開放して、手芸を習う機会を設ける。

このほか、子どもを対象にした人形劇もニーズにあわせて4つの教室を開催。成功すると100%近い目的が達成できる。それをどう持続するか今後の課題である。

委員：いろいろあったことを皆の力で乗り切ったのだと受けとめた。人に恵まれ、地域の技術・技能・経験がある人の支援があり、様々なことが実現できた。土地・建物代も、安くお借りしている

とはいえ、経費は賄わなければならない。次のステップに向かうために補助金を活用して、何に取り組もうとしているか教えていただきたい。

団 体：コロナでも大丈夫な環境を作ったので、少人数でコロナに対応して、年配の方へ向けた体操教室に取り組む。ラジオ体操より効率的で、簡単な動きでまっすぐ立つ体操を地域に広めたい。講師も選定しており、お金の配分を考えながら、補助金を活用したい。

委 員：地域のニーズを把握しながら充実・強化されていくうえで、持続可能性の見地から信頼性が大事である。透明性を確保する観点からボラセンに相談して、NPO法人化を検討いただきたい。

来場者：コミュニティ広場について、開いていてもなかなか人が集まらないと困っている団体は多いと聞く。リピーターとなる人をどのように作ったか、導いたか。人を寄せ付ける魅力、どんなことを心掛けたかお伺いしたい。

団 体：「笑顔」です。町内の集まりや地区の回覧板を利用したり、ちらしを配布したり、絶えず情報を届けることを今も続けている。初めて利用した方には内容を説明した名刺大のカードを配る。認知度を少しでもあげる取り組みをしている。

団 体：子育て世代として一言述べたい。子どもを持つ親はエレベーター乗るにも申し訳ないという思いがある。なかよし広場は、に入った瞬間、ボランティアスタッフが声をかけてくれる。10分でも子どもを抱いてくれて、温かいコーヒー飲んでと言われるのが嬉しい。ここで知り合ったお母さん友達もみんなそう言っている。冬至にゆずあるかなとのぞいてくれるなど、1つずつ積み重なりリピーターが増えることにつながる。

コーヒー1杯200円、コンビニに行くより温かいものを飲みに行こう、泣いても抱いてあげると、子どもを持つ親が立ち寄れて、温かいと感じられる場所が私たちの世代には近くにない。子育て支援センターは予約が必要なため敷居が高い。子どもがいない頃は考えたこともなかったが、こうした広場があることが私自身もしあわせだ。私たちの世代はスマホ繋がっているのだから、これからも口コミで広がると思う。

来場者：いろんな切り口でのPRと笑顔がキーワードで取り組まれたと受け取った。

【委員からの感想】

- 地域住民の健康増進を目的とした様々な活動について、私自身も活動を立ち上げた経験があるが、次につなげていくことは大変であると感じている。長く続けて、頑張っていたら、他の地域活動のモデルとなり、新しいコミュニケーションとなることを期待します。

3 刈谷映画倶楽部／「刈谷市地域映像制作のためのビデオ講座」

ア プレゼン概要

- 2004年3月結成。メンバー4名。「映像制作を通じて地元を元気にしたい」をモットーに、映画製作（2020年「この街の交響曲（シンフォニー）」）や、映像の勉強会を開催している。
- 刈谷のために何ができるか考え、きっかけとなったのは依佐美の鉄塔である。現存していたら世界遺産になったかもしれない。出かけて帰ってきた時に、鉄塔が見えると地元に戻ってきたと感じた刈谷市民はたくさんいると思う。現在、依佐美の鉄塔を3DCGによる再現に取り組んでいる。
- このほかにも市内には、場所、建物、文化、伝統など素晴らしいものが多い。未来に残るのか、この先なくなってしまうかもしれない。今なら間に合う、映像として残そうと考え申請した。
- 刈谷市の地域映像制作のビデオ講座を開催する。メンバーだけでは既存の名所を撮影することは大変である。映像を上手に作ることを多くの方に伝えることにより、多くの人の手によって刈谷の名所を伝えることができると考え企画した。
- ビデオ講座のポイントは、第三者に伝わり、見てもらえる映像づくりである。プロの機材を使用して撮影するだけでなく、作品にすることが大事である。第三者から見て、見るに堪えるものを制作すること。単に撮影したものを見せても人には伝わらない。構成や演出が必要である。

- ・そうしたプロが持つ技術・ノウハウを、団体のネットワークを活用して伝える講座を開催する。
- ・参加者には卒業制作として、万燈祭をドキュメンタリーとして撮影制作し、発表してもらう。
- ・機材費は15万円。プロの機材は高価であるため15万円を計上。複数活用して技術を伝える。
- ・モチベーションを高める目的で、参加者の制作した作品の発表する上映会を開催するほか、団体公式 YOUTUBE チャンネルを開局し、刈谷を残し、伝える目的で、多くの方に見てもらおうよう取り組む。
- ・映像として残すだけでなく、人と人のつながり、まちの再認識・再発見につながる取組である。

イ 質疑応答

- 委員：映画倶楽部として考えるまちの課題を教えてください。活動を通して解決したい課題は何か。
- 団体：モットーとして、地元を元気にしたい。刈谷の人に刈谷のことを知ってもらって、元気にしたい。知らないよいところがたくさんある。プロに近い映像で伝えることにより、地元の方には愛してもらい、市外の方に知ってもらう。刈谷市は県内で2番目に住みたいまちである。市の方がもっと刈谷を知ることになれば、住みたいと思うし、市外の方も来てもらえる。人の流れをつくることと、もっと知ってもらいたい。
- 委員：刈谷の魅力を幅広く伝える中で、万燈祭を選んだ理由は？
- 団体：刈谷と言えば、天下の奇祭万燈祭と考えている。保存会会長から祭りの良さを聞いたり、魁とのタイアップをしている関係もあり、最初に手掛けるなら万燈祭と考えた。依佐美の鉄塔は若い方に知られていない。資料館に写真はあがるが、映像は残っていない。どれくらいの規模でどんな雰囲気だったかを伝える目的で取り組んでいる。
- 委員：アピールポイントとして、文化・芸術活動を通して若者の成長応援につながるとあり、目的では幅広く市民にとあがるが、今回の活動の対象はあるか。
- 団体：映像を作ることでなく、作り方を教えることが目的である。発足当時の話であるが、映像の作り方講座に参加して、映像のおもしろさを知り、映画製作に取り組み、シンゴジラの技術を担当した方がいる。日本、世界へ飛び立った。青少年育成につながる。
- 委員：子どもたちの経験を広げていただきたい。
- 委員：万燈祭は今年7月末に開催されるが、申請書では8月となっているが？
- 団体：7月に撮影を行う予定である。申請書の予定から早めて行う。
- 委員：みんなに広めて分かるようにするためには、万燈祭はどのように作り、どのように楽しませようとしているか、制作過程も取り入れてもらいたい。
- 団体：万燈祭はいかに作られるか、運営する人の苦労や苦悩、取材撮影することで多くの方に知ってもらえる。計画段階では祭りの予定を把握していなかった。作品の作り方を伝授しプロが同行し、保存会の協力を得て一般の方が入れない部分までカメラを入れて撮影を行う。
- 委員：万燈祭に参加する一般の方が映ってしまうことにより、肖像権など問題がある。一つの町内と連携するなど実現性のあるものとしていただきたい。受講希望者は何名あるか。
- 団体：4月から説明会を行い、募集する。これまでの実績から、10名程度を想定している。
- 委員：撮影は現在、デジカメなどで撮影できる。専門機材を強調する理由とは何か。
- 団体：スマホやデジタルビデオカメラは安価でもきれいに撮れるが、きれいに撮れるのは、条件のよい時に限られる。暗さなど悪条件でもきれいにとれるのがプロの機材である。プロのネットワークや力を活かして、受講生にはプロから学び、プロの機材を扱えるのだと自信をもって撮影に臨める。撮影のマナー、肖像権の問題や撮らせていただくという気持ちも必要になる。プロとアマチュアの違い。気持ちのところから撮影を一から伝授する。映像があふれているので、普通に撮っても見てもらえない。きれいな映像、特別な映像だから見ってもらえる、それを作る人を育てたい。刈谷の名所を撮影することにより、刈谷の魅力が増すと信じている。プロの機材に触れる機会がないため、その機会をつくりたい。

- 委員：今年の万燈祭は7月30、31日。過去2年は9月となっていたが中止となった。3年ぶりでコロナでどうなるかわからないが、準備は始まる。年間スケジュールは前年度が終わった翌日から始まる。ほとんどの地域で準備がはじまっており、3月から方針に沿って動き出す。実際の万燈のスケジュールとのずれが生じないか。どのように解決するか。
- 団体：審査の結果を受けて一部でも認めていただければ、ちらしをつくり募集を始めたい。補助金期間に合わせて4月からとしているが、3月から動いていきたい。
- 委員：映像制作はシナリオの制作からと思うが、ドキュメンタリーの場合は後付けでよいのか。
- 団体：基本的にドキュメンタリーにシナリオは存在せず、構成である。いつごろに行われる行事をいつごろ撮り、どのような構成をするか。万燈祭については、前半で撮影するが、ドキュメンタリーを撮るための構成は出来上がっている。
- 委員：保存会に携わる立場として、本番は仕上げの発表の場であり、大事なはその準備段階、3月から7月までの制作や練習を見てもらいたい。

【委員からの感想】

- 動画編集の仕事に携わっている。動画制作、企画、作品作りを学ぼうと思っても高額だったり、レベルがあわなかったりするため、地域貢献として取り組まれているのは素晴らしい。市民活動に携わる者としてありがたい。
- プロの機材に触れあう機会があるのはよい。講座を受講された方が知識を活かして、普段から映像制作をして、刈谷の魅力を広められるようなアフターフォローがあるとよい。見てもらう作品をコンセプトとされていたので、賞に応募したり、ウェブ発信したり広がりがあってもよい。
- 動画発信は市民活動、地域活性化に取り組む活動に対してとても効果的で、いろいろな方が取り組みたいテーマである。今回参加された他の団体や保存会メンバーと繋がり、広がってほしい。
- 事業収入を得て、継続・発展的な活動としていただきたい。

3 結果発表・全体講評 於：市民ボランティア活動センター

(1) 結果発表

まちづくり活動支援事業（基準点：12.5点）

順位	団体名	事業名	審査点	会場点	合計点	採否
1	傳兵衛クラブ刈谷	「没後 100 周年 神谷 傳兵衛を知る・伝える」	21.13	2.17	23.30	採択
2	なかよし広場	「なかよし GS 地域住民 健康増進活動」	21.13	1.67	22.80	採択
3	刈谷映画倶楽部	「刈谷市地域映像制作のためのビデオ講座」	16.75	1.17	17.92	採択

- 審査結果については、後日団体あてに郵送するとともに、市のHPにも掲載する。
- 交付申請は来年4月以降に手続きを行う。

(2) 全体講評(審査委員長)

- 3団体とも採択おめでとうございます。
- 採択団体の提案は、地元刈谷を知るテーマが2団体、高齢化社会への対応が1団体であった。日本全体の課題でもある高齢化社会への対応に向けた取組が採択され、市民活動として取り組まれるのは結構なことである。
- 審議検討で出た意見について、傳兵衛クラブ刈谷の説明にあったマンガ本を作るならルビを振ったほうが小学生に読みやすいといった意見があった。可能ならば検討いただくようお願いしたい。

- 「神谷傳兵衛」さんを私自身初めて知り、感動的な話であった。あまり知られていない地域の偉人を発掘し、広げようとする活動。その活動の意味を日本の状況と重ねあわせながら考えたい。
- 「なかよし広場」は昨年の売上は500万円超、来年度の予算では600万円を超え、大変な努力によって取り組まれている。売上が実現されれば、補助期間後も自立して取り組まれる可能性が高いと思われる。継続して取り組んでいただきたい。また、経験を踏まえ、団体からスピンアウトして、他の課題へも取り組むような活動の広がりにも期待したい。
- 「神谷傳兵衛さん」の時代である明治だけでなく、昭和の高度経済成長の時代を支えた方も多くいる。そうした方の功績をふりかえり、令和の現代において、私たちはどう対応していったらよいか。元気づけて、気持ちを奮い立たせるためには、地元の偉人の役割は大きい。歴史に学ぶことからそうしたまちづくりに取り組んでいただくことを期待して、講評とさせていただきます。